

第22回薬学同窓会学術講演会報告

令和元年11月22日に、第22回薬学同窓会学術講演会が開催されました。今回は、PGV株式会社 水谷治央 先生（40回生、病態分子薬学分野）をお招きし、「薬学が持つ学際性を活かした脳神経疾患予防の社会実装」についてご講演を頂きました。

講演では、水谷先生が、薬学部研究室配属から大学院進学、米国留学、帰国後のベンチャー企業への参加について、当時のご自身の悩みや研究への興味、モチベーション等も交え、時系列にわかりやすく学生にご講演頂きました。水谷先生は、薬学部で脳・神経研究と出会い、自分が何をしたいのか、何に挑戦したいのかについて、ご自身の内面と向き合い、その希望を満たせる環境に挑戦することの必要性や難しさについてご講演されました。一個人では達成できない研究目標に立ち向かうために、周りを巻き込んだヒューマンネットワークの形成やコミュニケーションの重要性をご講演頂き、現在は、脳・神経研究で培った経験を社会に還元（社会実装）するために、大学発ベンチャーに参加され、脳波の取得とAI学習を基にしたデータを医療やビジネスに応用すべく挑戦的な取り組みをされていました。ややもすればありがちな消去法で将来や可能性を考えるのではなく、自分の興味を優先し長所を伸ばして働くことの楽しさを痛感した講演でした。学生の皆様は将来、国内外、産官学問わず、多方面で活躍が期待されています。水谷先生の講演が、学生の皆様のキャリア形成の一助になれば幸いです。

講演後の懇親会では、同窓生の皆様にもご参加頂き、お互いの近況や思い出話を語り合い、楽しい時間はすぐに過ぎてしまいました。

ご多忙にも関わらずご来学頂き、実体験に基づく素晴らしいご講演を頂きました水谷先生に心より感謝致します。



(文責：塚本宏樹)